

軍事化する現代資本主義

利潤率低下・レント資本・AI革命は
なぜ戦争へ向かうか

2026年7月18日

社会民主党千葉県連合 第7回学習会

軍事化する現代資本主義

世界同時軍拡が
なぜ起きているのか？

「安全保障」環境



政治家



資本主義の構造変化



◎最も重要

これが今日のテーマ

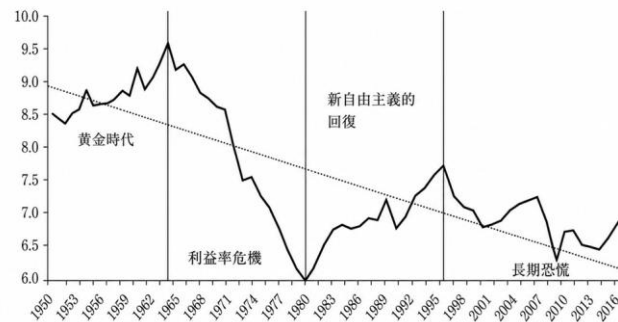
現代資本主義の歴史的展開

Recent History

- より大なる利潤 絶対的・相対的剰余価値の生産
 - ↓
- 利潤率の低下 競争による機械採用で不変資本が増え労働力が減る
 - ↓
- 新自由主義 労働強化、時間延長、賃下げ、雇用の非正規化など
 - ↓
- 金融化 利潤が低下した資本（過剰資本）は金融部門へ、バブル崩壊
 - ↓
- 国家依存 財政支出拡大・大企業減税とそのための消費税導入など
 - ↓
- レント資本 G A F A Mなどプラットフォーム資本による経済の入り口支配
 - ↓
- AI革命 A I 活用の一般的知性（社会全体が生み出した知識・情報）の独占
 - ↓
- 軍事化 レント資本は「新たな蓄積の場」として軍需市場へなだれ込む

利潤率低下への資本の対応

図 3-3 G 20 諸国の資本利益率 (%)



出所：筆者作成。

利潤率低下

↓
搾取強化等々

↓
金融化

↓
国家依存

↓
IT・AI化

↓
軍需市場



レント資本主義化とは

- ・ <強欲オーナー>
- ・ 20世紀（剰余価値・利潤）
- ・ ●工場（実物中心）
- ・ ●機械・労働者（実物中心）
- ・ ●商品（実物中心）
- ・ ●剰余価値・利潤（社会的実体・モノとしては貨幣・ゴールドなど。特殊な社会関係の中でのみ発生）



- ・ < その背に乗るおんぶお化け >
- ・ 21世紀（レント）
- ・ ●データ、アルゴリズム、ソフトウェア、特許、ネットワーク（情報中心）
- ・ ●AI・一般的知識（社会全体が形成した知識（情報中心）
- ・ ●市場へのアクセス権、ライセンス、広告（情報中心）
- ・ ●レント（社会的実体）



AI革命が意味するもの ①

一般的知性（科学的知識、社会全体が生み出した知見や情報）

単なる情報処理技術ではない。人類全体が長い歴史の中で形成してきた「一般的知性」を、巨大な計算能力によって再編成。科学研究の成果、教育などによって蓄積された知識、日々の生活から生成される膨大なデータ、文化、言語、社会的経験——本来、人類全体が共同で形成してきた社会的成果。

生成AI

それを巨大な計算能力によって再編成し、新しい生産力へ転化する技術。
AIは現代資本主義最大の生産力。

それが私的に所有されている

搾取強化、レント収奪、新たな失業と格差貧困拡大、軍拡と戦争へ。

AI革命が意味するもの ②

『経済学批判要綱』（グルントリッセ）

1857年から1858年に執筆

価値の基準

資本主義の
運命

- 直接的な労働時間の必要性が激減する。
- 「一般的知性」(科学技術)の発展により、労働時間を富の基準とする資本主義の価値法則が揺らぐ。より高度な社会への移行を迫られる



『資本論』 1867年第1巻、1894年
第3巻のドイツ語初版発行

- 機械化が進んでも、価値の源泉は「労働」のみ。
- 資本は「一般的知性」を「相対的剰余価値」を搾取するための強力な武器として飼い慣らし、なおも存続する。

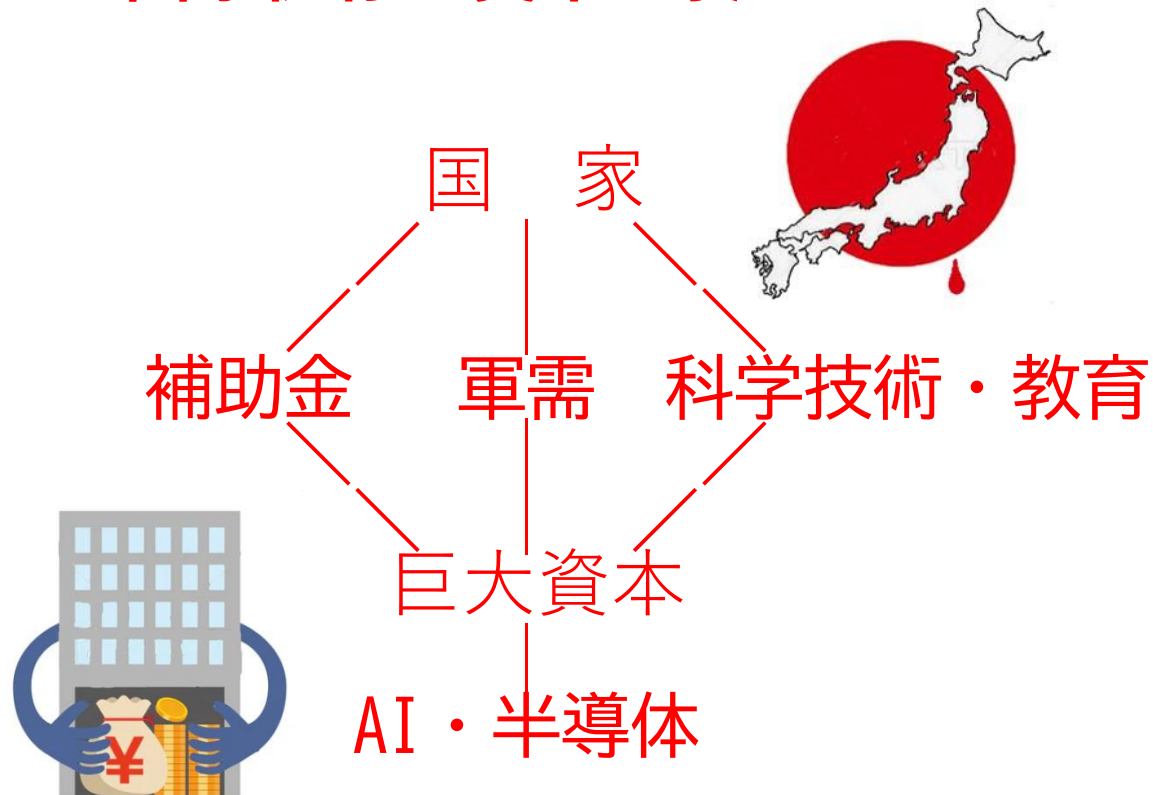
AIやデジタルインフラは、資本主義の下では資本の利益に奉仕させられる。本来は、一部の独占資本ではなく人類共通の財産(コモン)として管理されるべき。AIという「一般的知性」を資本のコントロールから解放し、労働時間を削減して人々の自由な時間を増やすために用いるべき。



国家依存型資本主義

ケインズ主義をはるかに超えて

・ 国家依存型資本主義



歴史的推移↓

・ 資本と国家の分離と共同

企業＝市場で活動、国家＝市場を規制・公共サービスを提供

・ ケインズ主義

市場＝需要不足により長期停滞。国家＝財政支出で需要を補うが、あくまで市場を補完する主体

・ 国家依存型資本主義へ

国家は需要を創出する主体ではなく、資本蓄積の前提条件そのもの。半導体産業でも、宇宙産業でも、サイバー産業でも、クラウド産業等々でも共通。

なぜ軍需市場なのか①

巨大な再生産市場に勝る誘因

■再生産市場(医療・介護・子育て
教育・自然環境・公共政策など)

- 公共性が強い
- 利益制約
- 労働集約的
- 市民の監視
- 利用者中心



■軍需市場(戦車・ミサイル・軍艦・ド
ローン兵器、AIシステムなど)

- 国家補償
- 高利益率
- 技術集約
- 国家機密
- 国家需要中心



なぜ軍需市場なのか②

再生産軽視は資本の限界示し、軍事はそれを覆い隠す

- 軍需重視は偶然ではない

利潤率低下に直面した資本主義は、社会的再生産への投資を通じて人間の生活を豊かにする方向へ進むことも可能。

しかし、利潤の最大化を優先する資本蓄積の論理は、より安定した収益をもたらす軍需市場を選好する。

- 現代資本主義の矛盾を象徴

社会が必要としているものと、資本が必要としているものの不一致が、ますます激しくなり、深まり、絶望的に対立するようになっている。

- ここに「再生産」めぐる運動、「再生産戦線」の可能性がある

軍事化されるレント資本主義 巨大投資の必要が軍需に向かわせた



●AI開発・運用はかつてない規模の固定資本投資を必要とする

巨大データセンター、数十万基のGPU、高性能半導体、膨大な電力、高速通信網、海底ケーブル、人工衛星、冷却設備。企業が市場競争の中で安定的に維持することは不可能。

●軍事は莫大な計算能力と高度なデータ解析を必要とする

偵察衛星の画像解析、ドローンの自律飛行、ミサイル防衛、サイバー攻撃への対応、兵站管理、情報分析など、AIの活用領域は極めて広く、その需要は国家が継続的に保証

日本資本主義の軍事化

「防衛」政策だけではない

軍拡政策

半導体政策

AI政策

クラウド基盤・DX

経済安保

宇宙政策



国家全体の再編



大学では軍事研究の資金提供が増え研究課題が変化

企業は軍需市場への参入を成長戦略に

自治体ではデジタル基盤整備やクラウド化、イベント開催が経済安保と接続(DSEIなど)、予備自衛官任用の後押し

学校教育ではデジタル人材育成が国家戦略の一部に、「防衛白書」配布・入隊勧誘も

労働市場ではサイバー、AI、半導体など軍民共通分野への人材配置、体験入隊

今日のまとめ

- 利潤率低下



- 新自由市議的搾取強化



- 金融化・バブル



- 国家の財政・金融政策依存の深まり



- レント資本化・AI革命



- 軍事化する現代資本主義

- 第9回(次々回)へ



どう対抗するのか？



- 生産点と再生産戦線との連携・共同
- 「一般的知性」と「社会的生産力」の奪い返し